



【歴史めぐりえ(6)】ひっそりとかくされた銅戈

〈銅戈って…?〉

「銅戈」とは、青銅という金属でつくられた、「戈」という武器の刃の部分です。中国で発明された、草をかき取る鎌の形に似た武器で、馬にのってたたかうときに使われていました。

日本には2000年以上前の弥生時代に伝わりましたが、武器としてではなく、ムラのまつり（特別な儀式）のときに使われたと考えられています。

〈小郡市寺福童にかくされた銅戈〉

小郡小学校の南にある寺福童遺跡では、9本の銅戈が見つかっています。これらの銅戈は、地面にほった穴の中に、ていねいに立ててならべられていました。まわりには、ほかに生活のあとは何もみつかりません。

つまり、むかしの人びとは、まつりに使う大切な道具を、ほかの人びとにわからない場所へ大切にしまっておいたのでしょう。

